

別海町昭和 阿部 敏子 さん

使わなくなった塔型サイロを改造して利用しています。

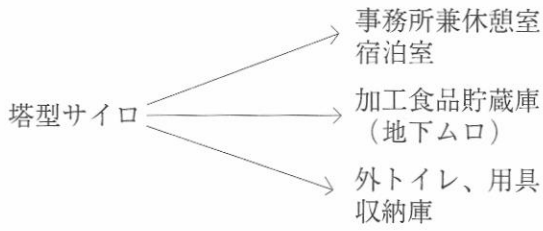


写真11 2階 実習生の宿泊室  
将来はアトリエにする予定



左側サイロ2階

左側サイロ1階



写真12 1階 事務所兼休憩室

写真10 右側サイロ →  
加工食品貯蔵庫



屋外トイレ

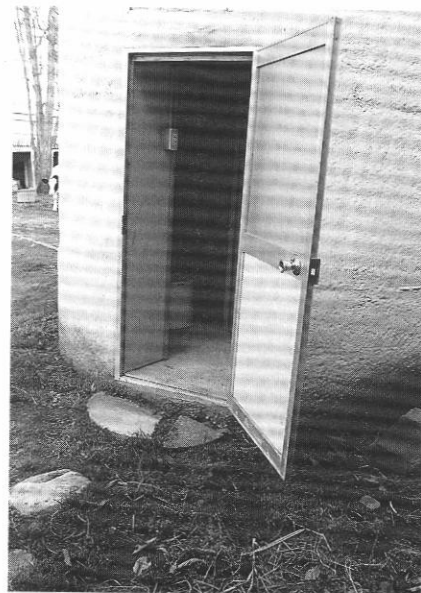


写真14 トイレ内部

写真13 屋外トイレ外観

### 3 地域の資料館あれこれ

今は不用になった農機具や生活道具は古い文化を語っていて興味深いものがあります。そうしたものの利用価値を知る事は苦勞の多かった開拓時代を理解する上で大切な事です。これらを資料として展示・保存する事で多くの方が昔の生活文化を知ることができます。



写真15 豊原開拓資料館  
(野付郡別海町豊原 17の15)

根釧パイロットファーム開拓の入植当時使用された農機具や生活用具等を収集・保存し、地域開拓の歴史を伝えると共に教育を目的として地域住民の寄付金によって建設されました。



からさお  
写真16 柄竿

収穫した穀類を乾燥後、脱粒（実や種子をさやから出す）する道具です。

(豊原開拓資料館)



写真17 五右衛門風呂（写真中央）と人力足踏脱穀機（写真左）

五右衛門風呂は、開拓当時屋外で星空を眺めながら入りました。スノコを下に敷いて風呂釜のふちに体が付かないように入るのに苦勞しました。

人力足踏脱穀機は大事な食糧であるソバ・イナキビ・麦などを足で踏みながら脱穀しました。

(豊原開拓資料館)

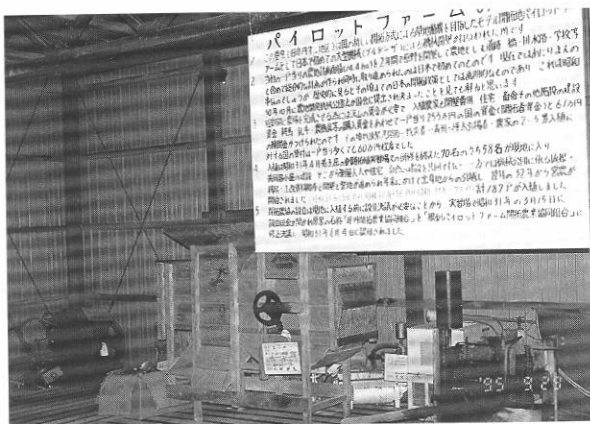


写真18 とうみ

収穫した穀類を精選して、しいな（実の入っていないもの）や殻、塵芥などを除去するものです。

(豊原開拓資料館)



写真19 別海町郷土資料館  
(野付郡別海町別海宮舞町30)



写真20 牛乳輸送缶

牛乳約30ℓが入ります。昔は、馬車や馬そりで集乳所迄運搬していました。

(別海町郷土資料館)



写真22 奥行臼駅通 (野付郡別海町奥白15の12)

## 郷土資料館

昭和52年に開館した文化センターは、同年図書館を付設、56年に郷土資料館を付設して現在に至っています。

故郷の歴史をふりかえり、そしていつまでも後世に伝えられるために次のようなコーナーが設けられています。

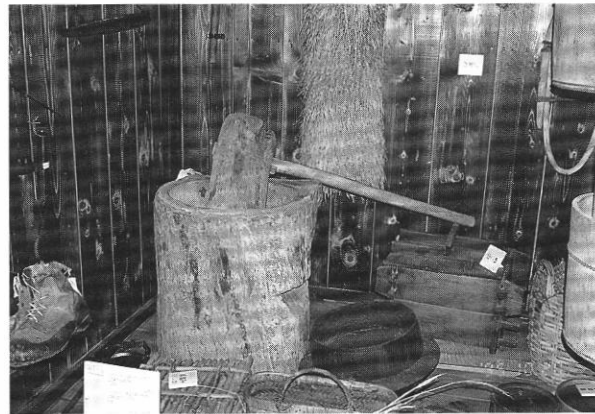
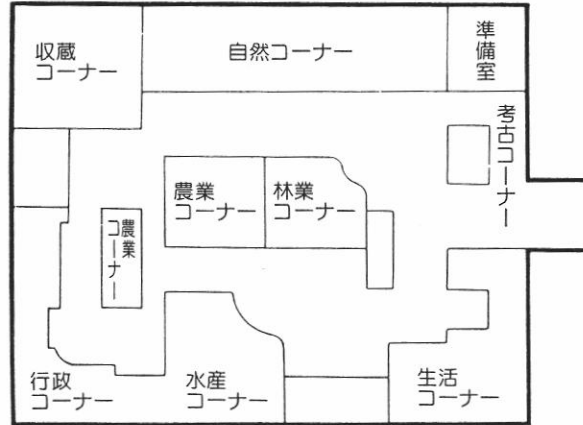


写真21 臼と杵

穀類をついて精白したり、つき砕いて粉にしたり、または餅をつくときなどに使用します。

(別海町郷土資料館)

## 無言で語る開拓の歴史

駅通は、北海道独特の制度として交通の不便な地に駅舎と人馬を備えて、宿泊と運送の便をはかるために設置されたものです。

本駅通は大正7年に一部建て替えられていますが当時の建築様式をそのままにとどめ、別海町に9か所あった駅通の中で現存する唯一のものであり、別海町開拓の足跡を残す歴史的建造物として大変貴重なものです。(北海道指定有形文化財)

## 4 我が家に木を植えよう

樹木は、多くの役割を果たしています。これまで生産効率をあげるために、木を伐採していましたが、最近では、住宅まわりに苗木を植えたり、傾斜地で農作業機械が入るのが難しい牧草地に木を植えたりする人も増えてきました。樹木があることによって、四季の移り変わりを感じることができたり、小鳥などの小動物が実をついばみにきたり、様々な潤いをもたらしてくれます。また、木は農場の歴史のシンボルでもあります。

もう一度、樹木の効用について見直してみましょう。

### 樹木の効用



わが家の農場を見わたし、将来も残して大切にしたい木、残す自然林、これから植えたい場所などがみつかりましたか。

木は、生長に長い年月を要します。これから植えたいと思う場所には早めにとりかかりましょう。

それでは、実際に木を植える場合どのように取り組んでいったらよいのでしょうか。

(1) 屋敷林・生け垣をつくろう

① 屋敷林とは

屋敷林とは、屋敷（住宅を中心として、そのまわりにある納屋、畜舎及び庭園など一切を含む地域）のまわりの全部または一部に樹木を植えて仕立てる林及び生け垣をいいます。

農家の屋敷林は、外縁林型、集団林型、農用備林型に大別されます。管内農家の中には、外縁林としてカラマツ、トドマツが植えられているところもありますが、多くの農家は屋敷林がありません。このため住居、畜舎等を強烈な季節風から守る効果のある木々や緑豊かなうおいのある環境にとほしいのが現状です。

このようなことから多縁林（多目的に生活にうおいをもたらす林）と防護林をかねた屋敷林の造成が必要ではないでしょうか。

屋敷林のつくりかた

屋敷林には、防風、防雪などさまざまな効用がありますが、この効用をうまく生かせるかどうかは屋敷の地割、屋敷林のつくりかた及び手入れのよしあしによって左右されます。地割は、まず季節風、常風の方向を定め、住宅、畜舎などの農業施設、通路などの関係や日常の利便性、住宅の日当たりを考え屋敷林全体の調和がとれるようにします。

基本的な造成モデルは次のとおりです。

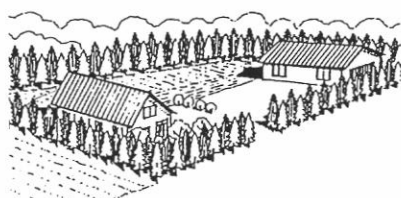


図1 外縁林（2列高林型）



図2 集団林（人工林型）

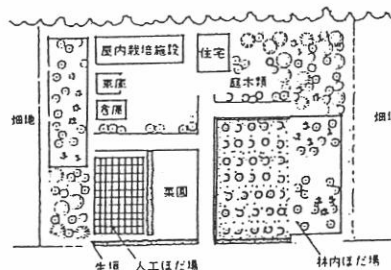


図3 農用備林（キノコ栽培型）

(ア) 周囲を（四囲）高林で囲む方法です。比較的面積の小さいところに向きます。屋敷の状態によっては、風上の1～2辺のみを囲んだり、一部を生垣にすることも考えられます。

(イ) 屋敷内の一部に集団状に樹木を植える方法で屋敷面積がやや広い場合に適しています。樹種も単一でなく混交林とし、果樹などを混植するとよいでしょう。

(ウ) 農家が営農や日常生活をするうえで必要な資材や、その場で活用してキノコなどを生産するために屋敷内につくる樹林のことをいいます。資材を生産する場合は間伐をして、日照や風通しをよくする必要があります。

表1 根室管内にむいている主な樹種

区分	根室管内の屋敷林に用いられる主な樹種
高木類	イチイ（オンコ）、エゾマツ、カラマツ、キタゴヨウマツ、ダイマツ、ストロブマツ、トドマツ、ブーゲンストウヒ、ヨーロッパトウヒ、ハルニレ、イタヤカエデ、シラカバ
中木類	ギンドロ、ネグンドカエデ、ヤマモミジ、エゾヤマザクラ、ナナカマド
低木類	イボタノキ、エゾノコリンゴ、クロミノウグイスカグラ（ハスカップ）、ツルバラ、ハマナス、ボケ、マユミ、メギ、モンタナマツ、レンギョウ

ここでちょっと

樹種を選ぶとき、条件、目的、用途を考えるのはもちろんですが、四季のイメージを描くことも大切です。

実のなる木を植えることによって、果実酒にしたり、小鳥が訪れたり楽しみがひろがります



## ② 生け垣とは

生け垣は境界を作ることが第一の役割ですが、美観的機能も重要視されています。美しい生け垣は、建物に落ち着きを与え、そこを通る人々や住む人々に親しみを感じさせ、また生け垣の緑は人の心にやすらぎをもたらします。また、農家においては、生産ゾーンと生活ゾーンの仕切りにも大切な役割を果たします。

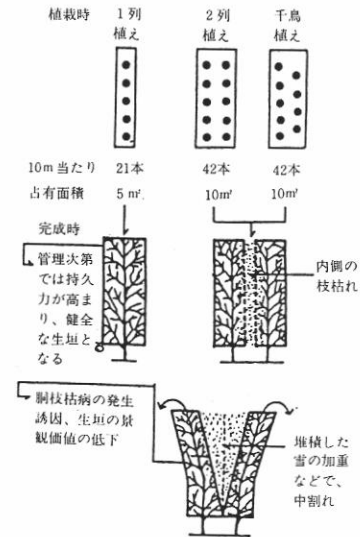
### ア 植栽時期と配置

植栽の時期は、根室地方では春（5月中旬）が適期とされています。

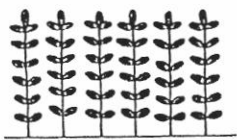
### イ 生け垣の樹種を選ぶ場合のポイント

刈込みによって枝が密にしげり、枝葉が繊細である。刈込みを行っても衰弱しない。日陰に耐えることができる。病虫害、気象害に強く、持久力が高い。外見的・装飾的に優れている。その地方に適し、苗木の供給が容易である。（くわしい樹種は前ページ表1参照）

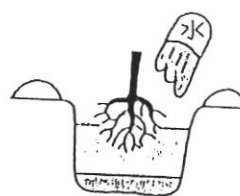
### 苗木の配置



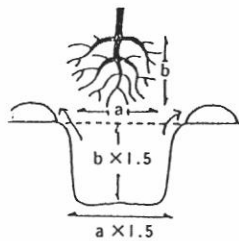
### ウ 生け垣の上手な植え方



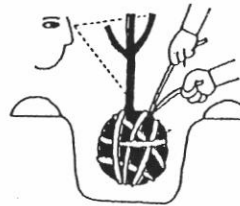
(ア)日当たり、水はけ、建物、他の木との調和を考えて、地域に合う樹種を選び、枝葉を切ったり、損傷した根を除くなどの準備をする。



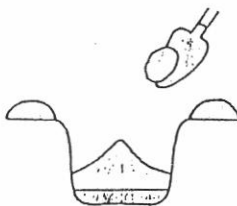
(オ)植穴の底に土を中高に盛り、根を四方によくひろげて苗木をおき、1/2ほど土をもどして水をたっぷりかける。



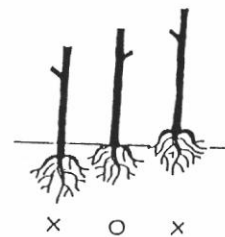
(イ)場所が決まったら、直径・深さとも、苗木の根張りの1.5倍くらいの植穴を掘る。



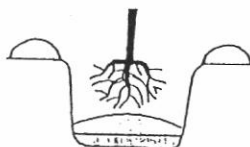
(カ)根鉢のついた植木の場合には、前後左右から見て、木の姿が美しく見えるよう裏表をなおし、位置を決める。



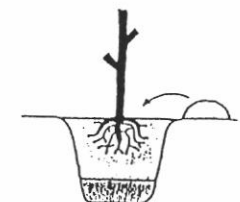
(ウ)がれきなどをとりのぞき、底に堆肥、腐葉土、化学肥料（100～200g）を入れ、よく混ぜあわせる。土がよくない場合は客土が必要である。



(キ)植えつけの深さが大切で、とくに深植にならないよう注意する。根元がみえかくれする程度が良い。



(ニ)根が直接、肥料とふれないよう、植穴の底に土を少しもどして中高に盛る。



(ク)水がしみこんだら、残りの土をもどし、根元をしっかりと踏みかためる。